

小林…小林と言います。入社の上りつかけは共通の知り合いがいて、「はじめに働け」と言われ、面接に行ったところ市川さんに「野球ができるか」「ドッジボールができるか」と聞かれ「両方できます」と。「お前何型だ」と聞かれ、「B型です」と。そして「それじゃあ明日から来い」と言われました（笑）。

さ…それで入社してから、技能オリンピックにどのくらいで出たんですか？

小林…入った年ですね。1月に入社して、学校に行かせてもらって。ちょうど「ガンバレ休暇」も始まった年でした。19歳の時だから：僕今年30歳なんですけど。だから11年前ですかね、ガンバレ休暇が始まったのは。

川井…私はこの中で一番古いんですよ。1991年から。再建して欲しいと言われて、とりあえず再建したら辞めようかなと思っただんですが、市川さんが来て、力になってあげようかなって思っ、ずつと今まで来ちゃいました。たいがい私も仕事を覚えちゃうとつまらなくなっちゃって、これまでも転々としているんですよ。でもここが一番長いんです。あと、ある程度責任を持たせてやらせてもらえるっていいのはよかったです。

さ…ここで続くのはどうしてですか？

川井…おもしろい。私はこの会社の仕事が好きで

すよ。自分が活かされて色々な認め方で認めてもらって。市川さんはそういうのが上手なんですよ。

### ガンバレ休暇を取って 旅行や勉強を

さ…みなさん「ガンバレ休暇」を使って何をしているんですか？

柳沢…仕事のことは考えないように過ごしています。平日に休めるので、子どもと一緒に学校まで歩いて行ったり、帰りを迎えに行ったりしていますね。かみさんと買い物に出かけたり。平日にそんなことができるのでリフレッシュにもなっています。そして休暇1週間の終わりには早く仕事をしたくなります。

それから、休むための段取りをしなくてはいけません。段取りができるということは仕事にも繋がります。今年8月に取って、うちの子どものサッカーの準備だとか手伝いにあてました。子どもとゴールを運んだりラインを引いたり…。

市川…「ガンバレ休暇」はもう10年くらいですね。

さ…この「ガンバレ休暇」を始めようと言ったのは会長ですか？

一岡…そうです。

市川…がんばって休めということなんです。

### こんな顔ぶれ・・・



川井加ほるさん(♪歳)  
ルピナ中部工業 取締役常務



小林佳央さん(30歳)  
元ルピナ中部工業社員  
ルピナ中部工業協会会長社長



牛越裕之さん(33歳)  
元ルピナ中部工業社員  
ルピナ中部工業協会会長社長

麻和…仕事もちゃんとがんばって、休みもがんばる。私はうちの奥さんも働いているんで、休みを合わせて旅行に行ったりしています。あとは、平日みんなが仕事をしている時に休めるなんてことは滅多にないので、同業者の仕事に邪魔にならない程度に付いて行ったりしています。この休暇に周りがどうやって仕事しているのか勉強させてもらっています。

乾…私は休暇が始まった頃は独り者だったんで、海外旅行行ったり自分の好きなように使えました。思うがままにバイクでどこかに行ったりしていました。結婚してからは、家族で旅行に行ったりします。良かったのは平日にドイツ・ニーランドに行けてかみさんは一番喜んでいましたね。

さ…クジ引きはおもしろいですね。どんなふうに行なうんですか？

柳沢…段ボールの中に○月○日～○日までって書かれた紙が入っているんですよ。

市川…年始にみんなで集って行なうんです。

小林…ガンバレ休暇ができてホントよかったですね。僕が入った年から始まって、当時は1週間の内、1日はボランティアで「ちくま」に行けって言われてました。その時は何で行くんだらうって思っていたし、実際行ってもボランティアで来て

いる方たちと上手に接することができなくて。一緒に作業するんですけど、俺は作業ができるから、俺が行けば助かるじゃんって思って、顔を合わせずやっていた。ボランティアの意味をわからずやっていたので、抵抗がありました。でも後々意味に気付いて、会社を離れてからちくまの方と接する機会がありまして、そこでやっと知ることができました。「元氣か？」なんて声をかけられたので良かったなと。それがありがたかったかなって思います。

さ…会長さんはどんな人ですか？

麻和…経営に関してすごいと思います。仕事の厳しさももちろんありますが、その中で人の温もりというか、温かいものをもっているのが惹かれますし頑張ろうと思いますね。

川井…お誕生日カードもすごいんですよ。ポナーナスの時も明細表と一緒に何か一言書いて入れましょうって時も、20人以上分を20分もかからずに書いてしまいました。入れるとき見ちゃったんですけど、すごくいいこと書いてありましたよ。何故、すぐに書けるのか聞いたんですよ。そしたら、「毎日よく見ているし、子どものように思っているから書けるんだ」って。「この人に何を書くじゃなくてスラスラ書ける」っておっしゃっていました。いいことも悪いことも。

さ…本日はありがとうございました。

### 取材を終えて

ルピナ中部工業の“ガンバレ休暇”は、若い彼ら自身の「勤続意欲の維持」「高いスキル」と仲間との「信頼感」を生んだ。今回ご参集くださったみなさんはドッジボールを通じた気の置けない仲間だそうだ。市川さんは「子どもたち(社員をそう呼ぶ)一人ひとりが経営者の感覚を持ち、それぞれの事業で採算を計算できる子になって欲しい。そしてそれを正直に報告(＝つまり高い透明性を保つ)して欲しい」という。それを見事に成功させ、負債8億円から従業員21名で経常利益6000万円の企業へと成長を遂げている。

ルピナは遊びのレベルも非常に高い。ドッジボールでは強豪を破り県大会優勝4連覇、全国大会準優勝にも輝いたそうだ。遊び、つまり余裕が彼らを一回り大きくさせた。裾野が広がれば自ずとそれだけ見える景色は遅ってくるのだろう。

そろそろガッチリと鎖で長時間管理する方法から脱却し、ノー残業や休暇を活用して、夢ややる気を持たせ「彼らが自ら伸びる力」を信じてみるのもいいのではないだろうか。

(編集部)